

第 1 次答申抜粋

4. 今後の課題

天然湖沼及び海域に関しては、類型指定を行うために必要な情報について検討・整理を行ったところであり、今後、このような情報に基づき、類型指定についての具体的な検討を行う必要がある。

5. おわりに

今回は、類型指定の検討において基本的に留意すべき事項を整理するとともに、具体的な水域において検討を行った。今後、本報告を踏まえ、国が水域類型の指定を行う水域について、順次当てはめの検討を行う必要がある。また、全国の水域においても、類型指定の検討が早急に進められることが望まれる。

なお、各種水域における具体の検討が進むことで、特別域や汽水域に関する情報を含め、種々の情報が集積されることも期待される所であり、それらを踏まえ、水生生物保全環境基準の体系の更なる充実が望まれる。